

電波専門委員会

2015年9月25日

小林秀行

@水沢VLBI観測所ユーザーズミーティング

平成26-27年度 専門委員会への チャージ

当該分野における共同利用の円滑な推進のために、各観測所の方針や今後の方向性などについて、各種小委員会を活用しながら、大局的かつ長期的見地から審議し、答申をまとめる。

1. 国立天文台として進める電波天文分野の次期大型・中型計画について、優先順位も含めて審議し、今後10年を見据えた国立天文台の電波分野におけるロードマップ案を作成する。
2. ALMAについては、欧米に伍する研究成果の創出を目標に、研究プロモーション(地域センターやASTEの役割、多波長との連携等)の進め方について審議する。ALMA地域センターについては、2012-2013年度で審議した結果に対するフォローアップを行う。
3. SKAについては、理論分野も巻き込んで科学目標の実現可能性について詳細な検討を行い、電波天文専門委員会として、SKAを国立天文台の電波分野次期大型計画として推すかどうかを検討する。
4. 水沢VLBI観測所については、VERAの観測が2022年3月に終了することを想定し、同観測所の将来についての議論を行い、答申にまとめる。
5. 野辺山宇宙電波観測所については、デコミッションを含む将来の方向性について議論を行い、答申にまとめる。
6. 電波分野における海外からの協力依頼(CCAT等)について審議する。

電波専門委員会の役割

- 共同利用観測プログラムの承認
 - ALMAは報告
 - 野辺山45m, ASTE, (Mopra), VERA, KaVAは承認
- 各観測所・プロジェクトの進捗の報告と議論
- 将来計画の議論

国立天文台電波専門委員会名簿

任期：平成26年7月1日～平成28年6月30日

台外委員（8名）

大西 利和	大阪府立大学大学院理学系研究科	教授
河野 孝太郎	東京大学大学院理学系研究科	教授
高橋 慶太郎	熊本大学理学部	准教授
田村 元秀	東京大学大学院理学系研究科	教授
中井 直正	筑波大学数理物質系	教授
羽澄 昌史	高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所	教授
藤沢 健太	山口大学時間学研究所	教授
○ 百瀬 宗武	茨城大学理学部	教授

台内委員（8名）

◎ 井口 聖	チリ観測所	教授
△ 齋藤 正雄	野辺山宇宙電波観測所	准教授
中村 文隆	理論研究部	准教授
竝木 則行	RISE月惑星探査検討室	教授
野口 卓	先端技術センター	教授
長谷川 哲夫	チリ観測所	教授
本間 希樹 [※]	水沢VLBI観測所	教授
松本 晃治	RISE月惑星探査検討室	准教授

※平成27年5月15日より

陪席

小林 秀行	副台長（財務担当）	教授
-------	-----------	----

第2回(2014年10月20日)

- ALMA小委員会(JSAC:Japan alma Science Advisory Committee)の所掌に野辺山宇宙電波観測所も入れることを了承
- 各レビュー委員会(ALMA,野辺山、水沢)の進捗
- 将来計画の進捗について
 - 南極サブミリ、Litebird,SKA
 - 日本SKAコンソーシアが、サイエンスブックを作成
- 共同研究の打診について
 - CCAT: 国立天文台として概算要求はできないが、オブザーバを派遣
 - CARMA,LLAMAなどの必要人員の検討など

第3回(2014年12月26日)

- 各観測所進捗報告
- 共同利用に関する方針の承認
 - ALMA,ASTE,Mopra 特にMopraは2015年で終了
- 各小委員会報告
 - 共同利用レフリー結果(ALMA,野辺山、VERA,KaVA)
- 各レビュー委員会の方針の確認
- 月惑星研究の長期ビジョンの検討会の状況
- 南極・Litebird・SKAの進捗

第4回(2015年05月15日)

- 各観測所進捗報告
- 共同利用に関する方針の承認
 - 野辺山45m
- 各小委員会報告
 - 共同利用レフリー結果(Mopra, ASTE)
- 各レビュー委員会の内容の確認
- CCAT・南極・Litebird・SKA等の進捗
- 周波数小委員会
 - 準天頂衛星との2GHz帯の共用について、衛星軌道情報の提供を受けることで可能

2014-2015年度期 水沢VLBIレビュー

- 水沢VLBI観測所の将来計画について審議未了のために、プロジェクトからの提案をレビューする委員会を組織する
- VERA に関する2010-2011年度で審議した結果に対するフォローアップ
- VERAの現状と達成度、そして今後の改善計画
- KaVA の現状と達成度、そして今後の改善計画
- 大学連携VLBI ネットワークの現状と達成度、そして今後の改善計画
- 東アジアVLBI ネットワークの現状と達成度、そして今後の改善計画
- 水沢VLBI観測所の将来 (mm-VLBI、space-VLBI、SKAなど。) 充実した科学成果を生むために、他のプロジェクトとの競合や連携を考慮した戦略的な科学目標の設定とその達成に必要な運用形態に対しての改善点を上記の改善計画の中に、しっかりと組み込むこと。